

## 特 集

特色ある大学教育支援プログラム  
「人間関係教育を包含するテュートリアル教育  
—温かい心を持ち問題解決能力を備えた医師の育成—」の総括

## 特集の目的

特色ある大学教育支援プログラムとは、平成15年度に文部科学省が高等教育（大学、短大、大学院教育）の教育助成として導入した先進的・特徴的教育実践のための競争的資金援助である。通称は「特色GP」で、GPとはGood Practiceの略である。平成15～19年度まで毎年全高等教育機関を対象に実施され、応募のあった高等教育機関の約10～20%が採択されてきた。本学医学部は初年度の平成15年度に「人間関係教育を包含するテュートリアル教育—温かい心を持ち問題解決能力を備えた医師の育成—」という取組名称で応募し、661校応募中の80校の採択校の一つとなった。

平成18年度は本学の特色GPの最終年度であった。最終年度を終えるにあたり特色GPを基盤として卒前医学教育の整備がこの4年間でどのように進み、今後どのような展開を迎えるかを報告する。また、東京女子医科大学の特色GPのプロジェクトの一環として海外の特色ある医学教育を学ぶ機会を教育職を対象として設けた。さらに平成15年度は文部科学省の他の競争的教育補助として「海外先進教育研究実践支援プログラム」にも採択され、教員を国外へ派遣した。従来の国外留学は、研究・臨床が中心であったが、これらの海外派遣では医学教育を学んでくることが主目的であった。本学の特色ある大学教育支援プログラムの総括として、これらの海外派遣を経験した教員の報告を併せて掲載し、本学の新しい医学教育を考える一助としたい。

（東京女子医科大学医学部医学教育学）吉岡 俊正